

地質情報展 2014 かごしま 展示と解説コーナー 鹿児島島の金山に関する展示報告

荒岡大輔¹⁾・高木哲一¹⁾・須藤定久¹⁾

鹿児島市中央公民館で行われた地質情報展 2014 かごしまにおいて、鹿児島島の金山に関するパネル展示を行いました（写真1）。過去には日本全国で採掘が行われていた金山ですが、現在は国内の多くの金山が閉山しています。しかし、鹿児島では現在もいくつかの金山で採掘が行われているため、鹿児島での地質情報展に合わせて金山についての紹介パネルを作成しました。

展示内容は3点で、それぞれ「金山とその採掘方法」、「菱刈金山」、「赤石鉱山・春日鉱山・岩戸鉱山」についてです。「金山とその採掘方法」のパネルでは、金についての一般的な知識と、日本における金山の分布について、および金山の2種類の採掘方法である坑内掘りと露天掘りについて解説しました。「菱刈金山」のパネルでは、坑内掘りを実施している菱刈金山について、金の品位や鉱床の形成モデル、および鉱山の内部構造などを解説しました。「赤石鉱山・春日鉱山・岩戸鉱山」のパネルでは、露天掘りを実施して

いる赤石鉱山・春日鉱山・岩戸鉱山について、金山の規模や形成年代、鉱山開発の歴史、および採掘方法などについて、多くの写真を交えて解説しました。

かつて日本が諸外国からジパングと呼ばれた時代には、莫大な金を産出する国として、国内外で認知されていた国であったことは良く知られています。一方で、国内の金山は過去のものであり、現在は国内で金の採掘を行っていないと思っている方も多いのではないのでしょうか。今回の鹿児島での地質情報展を介して、地元でも金山やその採掘を行っている企業があることを知っていただける良い機会となったのではないかと思います。また、金鉱床は浅熱水性鉱床と呼ばれるもので、地表に近い地層で金の高品位部分が脈状に分布する鉱脈型が一般的です。鹿児島を含めた南九州には、今回紹介した金山を含めてたくさんの金鉱床が存在しますが（Watanabe, 2005）、大部分は北薩地域に存在する菱刈金山のような、石英や方解石の脈に金の鉱化



写真1 鹿児島島の金山に関する展示の様子。

1) 産総研 地圏資源環境研究部門

キーワード：金山，鹿児島，展示

作用が確認されています(中村, 2004)。一方で, 赤石金山, 春日金山, および岩戸金山は南薩型と呼ばれる高酸化硫黄型の金鉱床で, 塊状の硅化岩体中に胚胎している珍しいタイプの金鉱床です(中村ほか, 1994)。このような狭い範囲でもタイプが大きく異なる金鉱床が存在するなど, 鹿児島が鉱床学的にも貴重な地域であることが少しでも伝わっていれば幸いです。

今回の展示パネル作成にあたり, 2014年5月に赤石金山, 春日金山, および岩戸金山を取材のため訪問させていただきました。筆者(荒岡)にとっては初めての国内鉱山調査で, 現地での取材およびパネル作成を通じて, 金鉱床について勉強することができ, とても良い経験になりました。最後に, 取材にご協力いただきました, 住友金属鉱山株式会社(菱刈金山), 三井串木野金山株式会社(赤石金山), 春日金山株式会社(春日金山・岩戸金山), および鉱山関係者の方々に感謝いたします。

文 献

- 中村 廉 (2004) 串木野金山の概要. 地質ニュース, no. 601, 30-35.
- 中村 廉・山中和彦・山崎辰男 (1994) 鹿児島県赤石金山の金鉱化作用について. 資源地質, 44, 155-171.
- Watanabe, Y. (2005) Late Cenozoic evolution of epithermal gold metallogenic provinces in Kyushu, Japan. *Miner. Depos.*, 40, 307-323.

ARAOKA Daisuke, TAKAGI Tetsuichi, and SUDO Sadahisa (2015) Report on exhibition of gold mines at Kagoshima in the Geoscience Exhibition in Kagoshima 2014.

(受付:2014年11月10日)